



ペンギんぐみだより

7月



2020年7月1日 保土ヶ谷保育園
ペンギん組担任

最近の子どもたちの様子

だんだんと暑い日が増えて、夏の訪れを感じるこの頃。子どもたちは暑さに負けず体をたくさん動かしています！戸外では今まで行ったことのなかった公園にも足をのぼしみんなワクワク！自分たちで手を繋ぐ友だちを決め、「帰りは一緒になごうね」「昨日もつないだね」と仲良く会話をしながら歩いています。

外遊びの流行はしゃぼん玉。自分で吹くことを楽しんでいきます。最初は息を入れすぎたり、逆向きにつけたりしていましたが吹くうちにコツをつかみ自分で出来るようになるまで挑戦していました。早く吹くといっぱいになるということに気付いたり、しゃぼん玉を吹き棒で捕まえるという遊びを思いついたりいろいろな楽しみ方が出来ています！これからいろいろな方法で外遊びを楽しんでいきたいです。

今月の活動

- 晴れている日は体調管理や暑さ対策に留意し、近くの公園にお散歩に行きます。公園での発見をさらに広げ、室内でも楽しんでいきます。
- 夏を感じられるような製作、歌、感触あそび等を行います。（絵の具やはさみ等使う機会が増えます）

楽しかったよ！！～食育～

クッキングの第一歩！初めて、栄養士さんに教わりながら自分たちの食べるものに触れ準備をしました。

🍷とうもろこしの皮むき🍷

少し硬かったですがみんな力いっぱい引っ張り、握り一生懸命！黙々と皮をむく子、友だちと一緒に1本剥く子…とそれぞれ夢中で取り組んでいました。「トウモロコシでできた！」「洋服ぬぎぬぎ～」と楽しんでいました。翌日どうやって調理したのかも教えてもらい、隣のクラスをのぞいて、みんなの分のおやつになったことを喜んでいました♪

🍷おにぎり🍷

油揚げの混ぜごはんをもらい、ラップに包みました。ハート形にしてみたり、つぶしたり好きな形にして友だちと見せ合いっこ。楽しいおやつ時間になりました！



♡🍷ペンギん組の目標🍷♡

- 基本的な生活習慣が身につく、身の回りのことを自分でしようとする。
- 保育士や友だちとの関わりの中で、様々な気持ちが育つ。
- ルールのある遊びや模倣遊びを十分に楽しむ。
- 必要な言葉がわかるようになり、友だちや周りの人との会話を楽しむ。

3歳児って…（これからのペンギん組）

- 着替えや排泄、手洗い、うがい、お箸など新しいことが少しずつできるようになってきます。
- 手先が器用になり簡単な絵を描いたり、ハサミを使って紙を切ったりすることが出来るようになります。
- 運動面でも手足の協応動作、ケンケンやよじ登り等目の前の目標に向かって全身を操作してダイナミックに動くことが楽しくなります。
- 感性が豊かになり、身近な人の気持ちを少しずつ理解できるようになっていきます。
- 我慢や許容といった人との関わりの中で必要になる社会性を、だんだんと身につけていきます。
- 自我がさらに発達していきます。自分のやりたいこと、やりたくないことが明確になり、自己主張が強くなります。



お知らせ&お願い

*連絡ノートはこちらからのコメントをする機会は週一回程度になります。ご質問やご相談のお返事やお伝えしたいことは記しますが、その日の出来事は写真やボードを見て頂き、お子さんとの会話を楽しんでいただきたいと思います。

- リュックの中には着替えを一組と、汚れ物を入れる袋を1枚入れてください。汚れ物は袋に入れるよう、お子さんにお声かけください。
- 歯ブラシは今年いっぱい使用しませんが、うがいをすることで食後の口腔内の清潔を保ちます。
- タオルの代わりにティッシュを使います。巾着、ハンカチはお持ち頂かなくて結構です。
- ロッカー下の青いかごには『パンツ、下着、洋服上下、靴下、シャワータオル』を常備してください。汚れ、おもらし等で持ち帰った場合は翌日補充をお願い致します。
- 体を使った活動が増えてきます。動きやすく、自分で着脱できる服装でお願いいたします。裾が長いもの、フード付きは事故の原因になりますのでご遠慮ください。
- 髪ゴムは飾りのないものでお願いします。（乳児クラスとの交流の際に誤飲の原因になります。）
- 保育園に持ってくるもの、身につけるものにははっきりと名前をご記入ください。

♡大切にしたいこと♡

- トイレトレーニングは子どものタイミングに合わせて進めていきます。まだおむつが取れていないと心配されると思いますが、個人差があります。必ずオムツは取れますので焦らず寄り添っていきましょう。
- イイヤヤ期に反抗期、複雑な成長過程にいる3歳児。でも子どもたちの大切な成長過程を認めて、受け止めていきます。
- 語彙が増えたとはいえ、まだ言葉は未発達。泣く、叩く、物を投げるといった癩癪が見られた時はまず子どもの気持ちに寄り添い、受け止めていきます。
- 自分でやってみたいという気持ちを強く持っています。大人が常にやってあげるのではなく、子どもにチャレンジできる環境を整えます。
- 喧嘩を通して社会性を身につけます。ケガの危険がある時以外は大人はすぐ止めず見守り、仲介が必要なときは互いの思いをしっかりと聞き、友だちの思いにも気づけるように援助していきます。